



家庭学習がんばるウィークの取り組み

梅雨が明け、今年も暑い夏が到来しました。プール組み立て、奉仕作業等、保護者の皆様には大変お世話になり、ありがとうございました。

今年も「暑さ指数」が31以上になった場合は、水遊び、プール遊びを終了して室内活動します。熱中症対策に取り組み、夏を楽しく過ごしていきたいと思います。

今年度、園小中で年間3回「家庭学習がんばるウィーク」を実施します。1回目は6月18日～24日でした。こども園では「親子のふれあいが愛着を育み子どもの心の安定につながる」という考えのもと、ふれあい動画を配信しました。

保護者から「我が子が喜んで、もう1回！と何度も主張しました。」「大きくなってふれあい遊びをしなくなったのですが、1回やると心地よかったようで、やって！と言ってきました。」「意識してふれあい時間をとる良いきっかけになりました。」等感想をいただきました。

また、「動画が開きにくかった」「わかりにくかった」等の意見もありましたので、次回の参考にしていきます。

今年度は、家庭教育支援チームと協賛で、懇談会や座談会に「メディアリテラシー」について考えていきたいと思います。これからの時代、メディアとのより良い関わりが子ども達の成長に欠かせなくなります。一緒に考えていきましょう。



未来を創る

「ほどよい不親切とは？」の巻

先日、中学校で行われた授業研究会に参加させて頂きました。保健体育でバレーボールの授業でした。自分たちの中学生の頃の雰囲気とは全く違っており、生徒自らがコート準備、ランニング、ストレッチを行い、授業に備えている姿は意欲の現れのように感じました。

また、今回は勝敗への注目ではなく、「チーム内で、ゲームの中でのパスやラリーが続くように、課題やアドバイスを伝えることができる」といったことが目標となっていました。そして、授業の途中でiPadを用いて、生徒自身が役割として撮影したゲーム最中の動画をグループごとに共有し、目標に向けた生徒同士の対話がなされていました。

自分の時代の記憶は、体育教諭による一方向からの指示によって授業が展開される…というのが一般的だったように思います。

協同学習の視点から、という名のもとに中学校では例えば…、「教師のほどよい不親切が必要」、といった内容が挙げられていました。

授業研究会での場面を振りかえったり、園内での「ほどよい不親切とは？」と頭に浮かべて考える中、親切を心掛けることを教えられて育った自分にとっては、目の前の子どもたちの育ちにとってとても重要なキーワードのように思いました。きっとこの「ほどよい不親切」という視点を持つことにより、子どもたち自身が考える、選べる、決められる場面を保障したり、お互いの対話の創出につながるのではないかと感じました。今まで親切でやっていたことを、ちょっと不親切になってやってみませんか。